

2017（平成 29）年度シティライフ学部自己点検・評価推進部会 P D C A 報告

P	D	C	A
<p>I 基本方針</p> <p>大学基準協会の大学評価基準に沿った自己点検・評価等を実施し、教育研究活動等の改善・向上に向けた取り組みを行う。</p>	<p>基本方針に沿って各種施策を実施した。自己点検・評価報告書作成のため、根拠資料の作成・整理を行った。また、各種施策について P D C A に基づく検証を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学の理念・目的を策定し、本学ホームページに公表した。 ・ 2022 年度までの目標と具体的な計画が記載された中期計画を策定し、本学ホームページに公表した。 ・ F D 活動を実施した（授業改善アンケート等の実施，F D 研修会の開催）。 	<p>自己点検・評価に必要な方針・規程・資料を整理できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学の理念・目的は適切に設定されている。大学の理念・目的及びシティライフ学部の目的を学則及び内規に適切に明示している。また、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表している。 ・ 中期計画をホームページに公表している。 ・ 組織的・多面的な F D 活動を実施できた。 	<p>各委員会との連携を強化し、教育研究活動の適切性を検証するためにアンケートの見直しを行う。</p>
<p>II 施策</p> <p>(1) 2017（平成 29）年度自己点検・評価報告書を作成し、内部質保証システムの検証を行う。</p> <p>① シティライフ学部中長期計画案のための意見の収集と整理</p> <p>② 方針・規定の整理</p> <p>③ 根拠資料の整理</p>	<p>① 各委員会より、シティライフ学部中長期計画案のための意見の収集を行い、整理した。また、各委員会等の施策について P D C A に基づく検証を行い（10 月，2 月），自己点検・評価報告書を作成した。</p> <p>② 各委員長に方針案の作成を依頼した。内部質保証のための全学的な方針及び手続案，教員像及び教員組織の編成方針案，教育研究等環境の整備に関する方針案，社会連携・社会貢献に関する方針案が作成された。</p> <p>③ 上記の通り，根拠資料を整理した。</p>	<p>①および② 自己点検・評価の過程で，中長期計画案・各種方針案をとりまとめ，各委員会と連携することができた。</p> <p>③自己点検・評価を行うにあたって，アンケートの項目の見直しが必要であった。</p>	<p>①および② 引き続き，各委員会との連携を強化する。</p> <p>③次年度，アンケートの実施する際，経年比較に配慮しつつ，質問項目を見直す。</p>

<p>(2) 授業改善アンケートの実施（春，秋）等</p> <p>① 授業改善アンケート回収率の向上</p> <p>② 「学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組」の作成による授業改善支援</p>	<p>① 授業改善アンケートを春学期（7月）及び秋学期（12月）に実施した。</p> <p>② 学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組の作成（2月）を各教員に依頼した。</p>	<p>① アンケートへの協力を各授業担当者から積極的に呼びかけたこと、アンケート入力期間を拡大したことにより、今年度の授業改善アンケートの回答率は昨年度より大きく改善した。</p> <p>② シラバスの考察を項目に追加することにより、シラバスの適切性についても検証することができるようになった。</p>	<p>① 引き続き、アンケートへの協力を呼びかけ、アンケート入力期間を拡大する。</p> <p>② シラバスの適切性の検証については別の方法も検討する。</p>
<p>(3) 教員の相互授業参観の実施 効果的な実施方法の検討，教員の相互授業参観報告書の作成</p>	<p>期間を拡大し（12月及び1月）、教員の相互授業参観を実施した。</p>	<p>実施期間を2カ月とったこと、非常勤講師担当科目も参観科目としたことにより、特定の教員に偏ることがなかった。</p>	<p>引き続き実施期間の拡大と参観科目の拡大を検討する。</p>
<p>(4) FD研修会の実施（5月）</p> <p>① シラバス改訂等をテーマに開催</p> <p>② 学位授与方針に基づくシラバス案の作成</p>	<p>① FD研修会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017.05 テーマ「成績評価のためのFD活動」 ・2017.10 テーマ「クラウド型ポートフォリオの業者説明会について」 ・2018.02 テーマ「情報セキュリティ・ポリシー、情報システムガイドライン、情報セキュリティ規則について」（FD・SD研修として） <p>② 教務委員会と連携し、学位授与方針に基づく2018（平成30）年度シラバス案を作成した。</p>	<p>① 2018年度用シラバス作成のポイント、クラウド型ポートフォリオの活用、情報セキュリティの重要性等について理解を深めることができた。</p> <p>② 教務委員会にて、学位授与方針に基づく2018年度シラバスが作成された。</p>	<p>①及び② 成績評価方法等，テーマを検討する。</p>
<p>(5) 2016（平成28）年度シティライフ学部FD報告書の作成（5月） 根拠資料の整理</p>	<p>授業改善のためのアンケート，学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組等を整理し，2016（平成28）年度シティライフ学部FD報告書を作成した。</p>	<p>授業改善のためのアンケート，学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組等を整理し，総括することにより，本学部のFD活動の成果が把握できるようになった。</p>	<p>引き続き，自己点検・評価に活用できるアンケート等を実施するとともに，項目を見直す。</p>

2017（平成 29）年度 子ども生活学部 自己点検・評価推進部会 P D C A 報告

P	D	C	A
<p>I 基本方針</p> <p>大学基準協会の大学評価基準に沿った自己点検・評価等を実施し、教育研究活動等の改善・向上に向けた取り組みを行う。</p>	<p>基本方針に沿って各種施策を実施した。自己点検・評価報告書作成のため、根拠資料の作成・整理を行った。また、各種施策について P D C A に基づく検証を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学の理念・目的を策定し、本学ホームページに公表した。 ・ 2022 年度までの目標と具体的な計画が記載された中期計画を策定し、本学ホームページに公表した。 	<p>自己点検・評価に必要な方針・規程・資料を整理できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学の理念・目的は適切に設定されている。 ・ 子ども生活学部の目的は学則及び内規に明示されているが、自己点検委員会の検討で C P、D P との関連は必ずしも適切な表現でない部分があることが指摘され、今後子ども生活学部の 3 つのポリシーの修正を検討する。 ・ 中期計画をホームページに公表している。 	<p>各委員会との連携を強化し、教育研究活動の適切性を検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特に教務委員会と連携し、子ども生活学部の D P、C P の文言を整理する。併せて、「育成したい学生像」の見直し、カリキュラムツリー、カリキュラムマップの作成をし、ホームページに公開するとともに、学生便覧等にも反映するよう一貫性を図る。
<p>II 施策</p> <p>(1) 2017（平成 29）年度自己点検・評価報告書を作成し、内部質保証システムの検証を行う。</p> <p>①子ども生活学部の中長期計画案のための意見の収集と整理</p> <p>②方針・規定の整理</p> <p>③根拠資料の整理</p>	<p>① 各委員会等より、子ども生活学部中長期計画案のための意見の収集を行い、整理した。また、各委員会等の施策について P D C A に基づく検証を行い、自己点検・評価報告書を作成した。</p> <p>② 委員会等に方針案の作成を依頼した。内部質保証のための全学的な方針及び手続案、教員像及び教員組織の編成方針案、教育研究等環境の整備に関する方針案、社会連携・社会貢献に関する方針案が作成された。</p> <p>③ 上記の通り、根拠資料を整理した。</p>	<p>①自己点検・評価の過程で、中長期計画案・各種方針案をとりまとめ、各委員会と連携することができた。また、各委員会においてはシティ学部との連携が進み、子ども生活学部の課題が明白になった。</p> <p>②諸規定の見直しが図られ、学内組織の改善、組織間の連携システムの見直しがされた。</p> <p>③今後とも根拠資料となるものを精選、整理することが必要。とともに、その保存、保管方法が課題となる。</p>	<p>①および② 引き続き、各委員会との連携を強化する。</p> <p>様々な資料の保存、保管方法、保管場所の検討をする。</p>

<p>(2) 各委員会等で実施している施策・業務の検証を行う。</p> <p>①各委員会の今年度の基本方針と施策について検討する。</p> <p>②各委員会の課題について共通理解する。</p> <p>③解決法を検討する。 (内容によって、各委員会・教学会議・自己点検評価推進部会)</p>	<p>① 各委員会の取り組みの課題について教学会議に提案、協議した。</p> <p>② 上記の課題について、内部質保証の観点から重要と思われるものを、自己点検・評価推進部会において検討した。</p>	<p>① および②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年3月に4期生が卒業した当学部では、これまで、学生の実態に応じた履修・授業運営・学生指導や授業方法の工夫が大きな課題となっていた。学生の学習環境の充実と修学支援のために次に示す事柄の改善が必要である。 ・保育者としての就職支援を重点的に行っているが、一般企業を志す学生もいる。就職準備時期が異なるので、キャリア支援のための体制の工夫は求められる。 ・通信課程履修学生や成績不振学生への支援が必要である ・クラス担任によるきめ細かい指導・相談体制をとっているものの、相談内容は専門性を要し、専門家との連携が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が可能な支援体制については十分に検討されつくされた。今後は、就学支援員、キャリア支援員、アドミッション支援員やこころと体の相談室に外部の専門家の配置を要望する。 ・H30年度4年生の実態に照らし、就職対策講座や公務員試験対策講座等を強化するとともに保護者対象のガイダンスを実施し保護者との連携協力を図っていきたい。 ・2年前よりシラバスの改善・充実に向けての取り組みを始めている。学習成果の可視化が現時点での課題である。このことについては引き続き研修を積んでいく。
<p>(3) 学位課程にふさわしいカリキュラムの改訂と授業科目担当者の配置</p>	<p>① 教職課程運営委員会を中心に教職課程のカリキュラムについて検討する。</p> <p>② 教務委員会を中心に初年次教育の導入について検討する。</p>	<p>① 各領域の「指導法」の充実が期待されていること及び全専任教員が保育者養成に従事することから、「指導法」の授業科目については複数担当とし、教員相互の良さを活かした体制づくりが必要。</p> <p>② 初年次教育の原案を作成し平成31年度より実施できるようにする。</p>	<p>① および②</p> <p>平成31年度より実施できるよう準備し、その成果について検証していく。</p> <p>また、H30年度は保育士課程の改訂があるので、引き続きよりふさわしいカリキュラムの改訂に向けて検討を続けていく。</p>
<p>(4) 授業改善アンケートの実施（春、秋）等</p> <p>① 授業改善アンケート回収率の向上</p> <p>② 「学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組」の作成による授業改善支援</p>	<p>① 授業改善アンケートを春学期（7月）と秋学期（1月）に実施した。</p> <p>② 学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組の作成（2月）を各教員に依頼した。</p>	<p>① アンケートへの回答を授業担当者とクラス担任から積極的に呼びかけたことにより、回答率は大幅に向上した。</p> <p>② シラバスの考察を項目に追加することにより、シラバスの適切性についても検</p>	<p>① 引き続き、アンケートへの協力を呼びかけるとともに、回答したことがどのような形で授業改善に結びつくのか学生にもわかるような工夫</p>

		証することができるようになった	を検討する。 ②シラバスの適切性の検証については別の方法も検討する。
<p>(5) F D研修会の実施</p> <p>① シラバス改訂等をテーマに開催</p> <p>② 学位授与方針に基づき、教育の質を保証し、学生の主体的な学びに資するシラバスの作成</p>	<p>① F D研修会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2017. 09 テーマ「教員免許法の改正と教職課程カリキュラムの変更」 ・ 2017. 10 テーマ「育成したい学生像」についての検討 ・ 2017. 11 テーマ「『評価基準』について 一卒業研究と実習一」 ・ 2018. 01 テーマ「『評価方法と評価基準」 <p>② 教務委員会と連携し「育成したい学生像」を明確化し、学位授与方針に基づく 2018（平成 30）年度シラバス案を作成した。</p>	<p>①教員免許法の改正、教職課程カリキュラムの変更について全教員が理解を深めるとともに、評価基準の可視化に努めた。</p> <p>②教務委員会にて、学位授与方針に基づく 2018 年度シラバスが作成された。</p>	<p>教育の質を保証し、学生の主体的な学びに資するシラバスを作成するにあたり、評価基準の設定について引き続き研修会を行う。</p>
<p>(6)2017（平成 29）年度子ども生活学部 F D報告書の作成（4月）</p>	<p>授業改善のためのアンケート，学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組、F D研修の内容等を整理し，2017（平成 29）年度子ども生活学部 F D報告書を作成した。</p>	<p>授業改善のためのアンケート，学生による授業改善アンケートに基づく教員の取組等を整理し，総括することにより，本学部の F D活動の成果が把握できるようになった。</p>	<p>引き続き，自己点検・評価に活用できるアンケート等を実施するとともに，項目を見直す。</p>
<p>(7)卒業生アンケートの実施</p>	<p>2016・2017（平成 28・29）年度に D P の達成度や改善・問題点を見出すことを目的に、卒業生の就職先・卒業生へのアンケート調査及び卒業生への聞き取り調査を実施した。</p>	<p>本調査から、概ね D P の達成度は高く、卒業生は社会に出て学修した知識や技術を活かして自己実現を果たしていることが伺えた。しかし、さらに客観性・妥当性のある評価を得るための改善点も明らかとなった。</p>	<p>カリキュラム改訂に伴う、3 P の見直しと関連させて、調査手法や内容を見直して、新たな調査を検討・実施する。</p>